

Release Bulletin for PowerBuilder 2017 R2 Japanese

PowerBuilder® 2017 R2 Japanese

FOR WINDOWS

DOCUMENT ID: ADC20231-01-2017-01

LAST REVISED: March 27, 2018

Copyright © 2018 by Appeon Limited. All rights reserved.

This publication pertains to Appeon software and to any subsequent release until otherwise indicated in new editions or technical notes. Information in this document is subject to change without notice. The software described herein is furnished under a license agreement, and it may be used or copied only in accordance with the terms of that agreement.

No part of this publication may be reproduced, transmitted, or translated in any form or by any means, electronic, mechanical, manual, optical, or otherwise, without the prior written permission of Appeon Limited.

Appeon and other Appeon products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of Appeon Limited.

SAP and other SAP products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of SAP and SAP affiliate company.

Java and all Java-based marks are trademarks or registered trademarks of Oracle and/or its affiliates in the U.S. and other countries.

Unicode and the Unicode Logo are registered trademarks of Unicode, Inc.

All other company and product names used herein may be trademarks or registered trademarks of their respective companies.

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Appeon Limited, 1/F, Shell Industrial Building, 12 Lee Chung Street, Chai Wan District, Hong Kong.

目次

1	Release Bulletin	1
2	既知の問題	2
2.1	2017 R2 日本語版に関する既知の問題	2
2.2	SVN / Git ソース管理に関する既知の問題	2
2.3	計算フィールドの DB 識別子に関する既知の問題	3
2.4	(PDFLib を使用した) SaveAs PDF に関する既知の問題	3
2.5	SQL Anywhere に関する既知の問題	3
2.6	ライセンスに関する既知の問題.....	3
2.7	アンチウイルスツールに関する既知の問題	3
2.8	オブジェクトのオープンに関する既知の問題.....	4
2.9	OData に関する既知の問題.....	4
3	Bug Fixes.....	5
4	SAP PowerBuilder 12.6 との統合バグ修正.....	6
5	PowerServer (PB Edition) と他の PowerServer Edition	7
6	製品の互換性	8
7	サードパーティのコンポーネントとデプロイメント	9
7.1	Apache File.....	9
7.2	Microsoft File.....	9
7.2.1	Visual C++ランタイムと Active Template Library.....	9
7.2.2	インクピクチャライブラリ.....	10
7.2.3	DirectX ランタイム.....	10
6.3	Web サービスの SOAP クライアントで使用されるソフトウェア	10
8	マイグレーション情報	12
8.1	旧バージョンの PowerBuilder から.NET ターゲットを移行する	12
8.2	プロキシの変数名としてのシステム型	12
8.3	Microsoft SQL Server を使用した OLE DB のパフォーマンス	13
8.4	OpenTab の動作変更	13
8.5	ImportFile のサイズ制限	13
9	ヘルプおよびその他の情報の入手	15
9.1	Technical Support.....	15
10	重要免責事項および法的情報.....	16
	Coding Samples	16
	Accessibility.....	16
	Gender-Neutral Language	16
	Internet Hyperlinks	16
11	著作権 / 免責事項	17

1 Release Bulletin

この Release Bulletin には、Appeon PowerBuilder® 2017 R2 日本語版の最新情報が記載されています。

Appeon PowerBuilder 2017 R2 日本語版は、以下の OS をサポートします:

- Windows 7 SP1 (32bit / 64bit)
- Windows 8.1 (32bit / 64bit)
- Windows 10 (32bit / 64bit)
- Windows Server 2008 SP2 (32bit / 64bit) (実行環境のみサポート)
- Windows Server 2012 R2 (実行環境のみサポート)
- Windows Server 2016 (実行環境のみサポート)

2 既知の問題

既知の問題と回避策について説明します。

備考

Appeon®サポート契約を結んでいる場合は、Appeon サポートウェブサイトを使用して Knowledgebase の記事や解決情報を検索できます。Appeon サポートウェブサイト: <https://support.appeon.com> にログイン後、Knowledgebase を選択して検索を開始します。

2.1 2017 R2 日本語版に関する既知の問題

以下は、2017 R2 日本語版固有の問題となります:

- F1 を押下するとヘルプの目次に移動しますが、ヘルプドキュメントは英文で表示されます。
- 以下のツールは英文で表示されます:
 - Standalone Translation Tool
 - Translation Toolkit
 - Auto Compiler
 - Orca
 - PBNI
 - PowerBuilder サンプルプログラムとデータベース
- RichTextEdit 機能として「組み込みリッチテキストエディットコントロール」を使用した場合に日本語文字がコントロール内に正しく表示されないことがあります。

次の機能は、PowerBuilder 2017 R2 日本語版と以前のバージョンで動作が異なります:

- GetDateFormat / GetDateFormatEx API を使用して、以下の Windows レジストリから元号が取得されます。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Nls¥Calendars¥Japanese¥Eras
- MidA, RightA, および Trim 文字列関数は、旧バージョンと戻り値が異なりますが、2017 R2 日本語版での戻り値が本来の戻り値となります。
- LastPosA が新たに追加されます。
- DayName 関数が完全サポートされます。

2.2 SVN / Git ソース管理に関する既知の問題

PowerBuilder IDE がクラッシュすることがあるため、「ワークスペースのプロパティ」ウィンドウ内の「ソース管理」タブに追加された新たなフィールド(パスワード、作成者、Email など)で F1 を押下してもポップアップは表示されません。

2.3 計算フィールドの DB 識別子に関する既知の問題

データソースに名前付き計算フィールドを追加した場合の DB 識別子が、計算フィールドに宣言した名前ではなく `compute_<4桁の数字>` になります。たとえば、データウィンドウ作成後に次の SQL 文を実行してカラムを追加すると仮定します:

```
SELECT column_a FROM table_b WHERE table_b.id = table_c.id AS example_column;
```

PowerBuilder 12.6 では DB 識別子は「example_column」になりますが、PowerBuilder 2017 R2 日本語版では DB 識別子は「custom_<4桁の数字>」になります。

2.4 (PDFLib を使用した) SaveAs PDF に関する既知の問題

SaveAs PDF メソッド(PDFLib を使用した NativePDF!)は、データやイメージを操作する際にいくつかの問題があります:

- ネストされたレポート内のデータ(多くのケースは最後にネストされたレポート)は、PDF ファイルに印刷されずに空白で表示されることがあります。この問題が発生した場合は、問題のあるネストされたレポートの高さを調節することで回避することができます。
- ピクチャコントロールのイメージを PDFLib を使用して PDF ファイルに保存すると、画質が低下します。

2.5 SQL Anywhere に関する既知の問題

SAP ウェブサイトからダウンロード可能な SQL Anywhere 17 トライアルバージョン (17.0.4.2053)には、既知の問題があります。この問題は、ストアドプロシージャを呼び出す際に影響します。この問題を回避するには、SQL Anywhere 12, 16, または 17.0.4.2088 以降を使用してください。

2.6 ライセンスに関する既知の問題

オンラインライセンスを使用してアクティベートされた PowerBuilder が、5 日以上 Appeon ライセンスサーバーと(マシンがインターネットから 5 日以上切断されたなどの理由で)接続されていない状態で、次回 PowerBuilder 起動時もインターネット接続されていない場合はローカルライセンスがロックされます。ライセンスがロックした状態で同じアカウントを使用し PowerBuilder にログインすると「既にログインしています。」というメッセージが表示されます。この場合はライセンス管理者に依頼し、Appeon ウェブサイトを使用して問題のアカウントをログアウトさせる必要があります。ログアウト後は、同じアカウントを使用し再度製品をアクティベートしてログインすることができます。

2.7 アンチウイルスツールに関する既知の問題

PowerBuilder と PowerServer の動作が保証されているアンチウイルスツールは、AVG, Avira,

McAfee, Avast, および Kaspersky になります。ここに記載されていない他のアンチウイルスツールは、PowerBuilder または PowerServer のインストールプログラムやランタイムファイルをブロック することがあります。その場合は、Appeon サポートチームにお問合せください。

2.8 オブジェクトのオープンに関する既知の問題

大規模で複雑なアプリケーションを PowerBuilder 2017 R2 日本語版 IDE で開いた場合オブジェクト(メニューやユーザーオブジェクトなど)がゆっくりオープンします。

アプリケーションをフルビルドすると、オブジェクトのオープンするスピードを大幅に向上させることができます。

2.9 OData に関する既知の問題

この問題は、PowerBuilder 12.6 および 2017 R2 日本語版で発生します。

トランザクションオブジェクトを OData サービスに接続すると、アプリケーションがクラッシュします。これは、PowerBuilder IDE がインストールされていないコンピューターに、アプリケーションをデプロイした場合にのみ発生し、PowerBuilder がインストールされているコンピューターでは発生しません。この問題は、「コマンド "regasm" が自動実行できない」という PowerBuilder ランタイムパッケージの制限によって発生します。以下の回避策を検討してください。

1. 「データベース インターフェイス」の「OData」チェックボックスを選択し、Sybase.PowerBuilder.ODataWrapper.dll を PowerBuilder ランタイムパッケージに含めデプロイします。
2. COM コンポーネントとしてアセンブリを登録します。

32bit OS では、次のコマンドを管理者権限で実行します: regasm Sybase.PowerBuilder.ODataWrapper.dll /tlb:Sybase.PowerBuilder.ODataWrapper.tlb /code base

64bit OS では、同様のコマンドを実行しますが、デフォルトで C:\Windows\Microsoft.NET\Framework64\v4.0.30319 にある 64bit の "regasm.exe" ファイルを使用します。

3 Bug Fixes

PowerBuilder 2017 R2 JP Build 1769 以降では、以下のバグが修正されています。

- (Bug ID: 717, 744, 759, 776, 768, 785, 791, 798, 802, 826) データウインドウカラムがプロテクト(Protect プロパティが 1 に設定)されている場合、データウインドウの SetRow を実行すると予期しない結果になることがあります: 1) SetRow 関数は、不正な値を返すことがあります; 2) 現在のカラムからフォーカスを失うことがあります; 3) フォーカスが現在の行から最初の行に移動することがあります。
- (Bug ID: 698, 741, 751, 752, 799) 計算カラムを含むデータウインドウの SQL を変更した場合(例えば、スペースを追加しただけの変更でも)、予期しない結果となります: (1) 計算カラムの DB 識別子が、"compute_####"に変更されます; (2) 計算カラムの全プロパティ(フォント,色,位置,表示可否)がリセットされます。
- (Bug ID: 330) 外部関数(OLE オブジェクトのプロパティ設定など)を実行すると PowerBuilder IDE がクラッシュします。
- (Bug ID: N/A) FileReadEx 関数は、ファイルからデータを読み取ることができない場合があります(長さ 0 の文字列)。戻り値は 3 を返します。
- (Bug ID: 889) Environment OSMajorRevision プロパティは、Windows 10 の正しいオペレーティングシステムバージョンを返すことができません。
- (Bug ID: 873) PowerBuilder がスクリプトをコンパイルする時に、PowerScript イベントにある埋め込み SQL 文を実行します。
- (Bug ID: N/A) GitLab または BitBucket サーバーへ「ワークスペースに接続」を実行した後、「Git プル」の実行に失敗します。

4 SAP PowerBuilder 12.6 との統合バグ修正

発表([ここを参照](#))によると、Appeon と SAP は、PowerBuilder の異なる製品ラインを提供します。

Appeon の製品ラインは、SAP の製品ラインで修正されたバグも含まれます。Appeon PowerBuilder 2017 R2 日本語版 GA の場合、SAP PowerBuilder 12.6 EBF 4166(2017 Q3 にリリース)のバグ修正も含まれています。

5 PowerServer (PB Edition) と他の Power Server Edition

PowerServer (PB Edition)は、Apeon PowerBuilder 2017 R2 日本語版 Universal Edition で提供される PowerServer を示しており、.NET IIS アプリケーションサーバーにのみモバイルアプリのデプロイをサポートします。他の PowerServer Edition は、Apeon が提供する PowerServer(Developer/ Workgroup/ Enterprise Edition)を示しており、.NET および J2EE アプリケーションサーバーの両方で Web とモバイルアプリのデプロイをサポートします。

表 5.1:異なる Edition に含まれるコンポーネント

コンポーネント	PB Edition	Developer Edition	Workgroup Edition	Enterprise Edition
PowerServer Toolkit	利用可能	利用不可	利用不可	利用不可
PowerServer (Web/Mobile)	利用可能 (モバイルのみ)	利用可能	利用可能	利用可能
PowerServer Web Component	利用可能	利用可能	利用可能	利用可能
PowerServer Help	利用可能	利用可能	利用可能	利用可能

PowerServer Toolkit は、PowerServer (PB Edition)でのみ使用できます。2017 R2 日本語版は、PowerServer(PB Edition)および PowerServer 2016 (旧称 Apeon Server)の両方へ Web とモバイルアプリのデプロイをサポートします。

PB Edition の PowerServer コンポーネントと Developer/ Workgroup/ Enterprise Edition の PowerServer コンポーネントは、別サーバーにインストールする必要があります。同じサーバーにインストールした場合、予期せぬ問題が発生することもあり両方をアンインストールし、別のサーバーに別々にインストールする必要があります。

また、これらの Edition では異なる機能がサポートされています。

表 5.2: 異なる Edition でサポートされている機能

機能	PB Edition	Developer Edition	Workgroup Edition	Enterprise Edition
モバイルアプリのデプロイ	サポート	サポート	サポート	サポート
Web アプリのデプロイ	非サポート	サポート	サポート	サポート
.NET アプリケーションサーバーへのデプロイ	サポート	サポート	サポート	サポート
J2EE アプリケーションサーバーへのデプロイ	非サポート	サポート	サポート	サポート
クラスターとロードバランス	サポート	非サポート	非サポート	サポート
オフラインモバイル機能	非サポート	サポート	サポート	サポート

6 製品の互換性

PowerBuilder は、多くのソフトウェア製品を使用して互換性テストを行っています。

表 6.1: PowerBuilder でテストされたソフトウェア製品

ソフトウェアの種類または製品	互換性の説明
SQL Anywhere	PowerBuilder 2017 R2 日本語版は SQL Anywhere 12.0 から 17.0 のテストを行っています。
Microsoft .NET	PowerBuilder 2017 R2 日本語版は Microsoft .NET Framework4.0 以降と互換性があります。
Framework Oracle JDK	PowerBuilder 2017 R2 日本語版は Oracle JDK 1.6 と互換性があります。

7 サードパーティのコンポーネントとデプロイメント

PowerBuilder アプリケーションは、PowerBuilder とあわせてインストールされるサードパーティコンポーネントといくつかの依存関係があります。

これらのコンポーネントのほとんどは、PowerBuilder ランタイムパッケージーとともにインストールされません。これらのコンポーネントのいくつかは、アプリケーションとともに配布することができますが他のコンポーネントはベンダーから入手する必要があります。

7.1 Apache File

PowerBuilder に含まれている Apache File をユーザーに再配布できます。PowerBuilder 2017 R2 日本語版に含まれる Apache code の使用または配布については PowerBuilder の無償ダウンロード規約にある Apache License 規約に従う必要があります。

アプリケーションが XSL-FO を使用してファイルを PDF として保存する場合は、Apache Formatting Objects Processor(FOP)のバージョン 0.20.5 が必要です。Apache FOP ウェブサイト (<https://xmlgraphics.apache.org/fop/>)を参照してください。

Apache Xerces ファイルの *xerces-c_2_8.dll* と *xerces-depdom_2_8.dll* は XML ウェブデータウィンドウのサポート、Web サービス用のデータウィンドウおよびデータストア、PBDOM、および SOAP クライアントの XML サポートに必要です。Xerces C++ Parser のウェブサイト (<http://xerces.apache.org/xerces-c/>)を参照してください。

7.2 Microsoft File

PowerBuilder の様々な機能を使用するために、実行するコンピューターに特別な Microsoft file が必要となります。

7.2.1 Visual C++ランタイムと Active Template Library

PowerBuilder のコアランタイムファイルをデプロイするとき、ユーザーのコンピューターまたはサーバーにある *msvcr80.dll* (32bit のみ), *msvcpr80.dll* (32bit のみ), *msvcr100.dll* および *msvcpr100.dll* Microsoft Visual C++ ランタイムライブラリと Microsoft .NET Active Template Library(ATL)モジュールの *atl80.dll* (32bit のみ) および *atl100.dll* が必要です。

PowerBuilder ランタイムファイルは、これらのファイルと依存関係があり、PowerBuilder ランタイムを必要とするすべてのアプリケーションおよびコンポーネントに必要です。これらの DLL ファイルは `\Program Files\Appeon\Shared\PowerBuilder` フォルダーまたは DLL アーカイブウェブサイト (<http://dlldump.com> または <http://driverskit.com/>)から入手できます。

備考

PowerBuilder ランタイムパッケージーによって生成された MSI ファイルを使用してインストールされる一部のファイルは、これらに依存します。たとえば *atl100.dll* は `pbjvm<version>`を登録する前にユーザーのコンピューターにインストールしておく必要があります。ランタイムパッケージーが生成した MSI ファイルを実行する前に

これらのファイルが対象のコンピューターにあることを確認してください。

7.2.2 インクピクチャライブラリ

アプリケーションでインクエディットとインクピクチャコントロールを使用する場合は、*Microsoft.Ink* , *Microsoft.Ink.dll* , および *Microsoft.Resources.dll* が必要です。これらのファイルは Microsoft .NET Framework 3.5 以降に含まれており、.NET framework をインストール後は C:\Windows\winsxs およびそのサブフォルダーに存在します。

7.2.3 DirectX ランタイム

PowerBuilder アプリケーションでは、DirectX 3D レンダリングを使用して、より洗練された 3D グラフ(3D 円, 3D 横棒, 3D 縦棒, 3D 折れ線, および 3D 面)を表現できます。DirectX グラフスタイルでデータアイテムまたは、シリーズの透明度を使用してデータの表示を改善できます。

DirectX 3D レンダリングは DirectX ランタイムによって異なります。3D グラフのプロパティビューの[全般]タブで 3D レンダリングチェックボックスを初めて選択すると、PowerBuilder が DirectX インストーラを起動します。インストールを中止すると、3D レンダリングプロパティは無視されます。PowerBuilder アプリケーションのエンドユーザーが、DirectX グラフスタイルを表示するためにはコンピューターに DirectX ランタイムをインストールする必要があります。DirectX ランタイムは、次の Microsoft ウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=2da43d38-db71-4c1b-bc6a-9b6652cd92a3&DisplayLang=en>

古いグラフィックスドライバーを搭載しているコンピューターでは、dxdiag.exe を実行して DirectX がサポートされているかどうかを確認できます。このファイルは、通常 Windows\System32 ディレクトリにインストールされます。dxdiag.exe を実行するとオープンする DirectX 診断ツールの[ディスプレイ]タブで、Direct3D が有効かどうかを確認できます。

6.3 Web サービスの SOAP クライアントで使用されるソフトウェア

PowerBuilder アプリケーションは、Web サービスに接続するために EasySoap を使用できます。PowerBuilder には実行ファイル形式の EasySoap++ライブラリ(*EasySoap170.dll*)が含まれており、このライブラリは *PBSoapClient170.pbx* に動的にリンクされます。

EasySoap++ライブラリとその使用は、GNU Lesser General Public License (LGPL)の適用範囲です。このライセンスのコピーについては、無償ダウンロード規約に関するドキュメントを参照してください。

お客様は、EasySoap++ライブラリを LGPL の規定に従ってサードパーティにデプロイすることができます。

EasySoap++ライブラリのコンピューターが読み取り可能なソースコードは、インストールパッケージの *Support\WSExtn* フォルダーにある *EasySoap.zip* ファイルにあります。さらに *PBSoapClient170.pbx* のオブジェクトコードと Microsoft Visual C ++プロジェクトファイルは、同じディレクトリの *soapclient.zip* ファイルにあります。

これらのファイルは LGPL の規約に基づいて提供されているものであり、EasySoap++ライブラリを変更したり、変更した *EasySoap170.dll* を生成するために再リンクしたりすることができます。ま

た *PBSoapClient170.pbx* と変更した EasySoap++インポートライブラリを再リンクすることもできます。LPGL の規定によれば、EasySoap ++ライブラリで変更した定義を使用するために *PBSoapClient170.pbx* を再コンパイルすることができない場合もあります。

PBSoapClient170.pbx をビルドするには、*soapclient.zip* ファイル内の *Readme.txt* ファイルにある手順に従います。

8 マイグレーション情報

PowerBuilder の任意バージョンから PowerBuilder 2017 R2 日本語版に直接マイグレーションできます。PowerBuilder 2017 R2 日本語版から古いバージョンの PowerBuilder へのマイグレーションはできません。

マイグレーション前に、バックアップを取り、マイグレーションアシスタントを使用して、廃止されて使用できないコードを確認します。新しいバージョンの PowerBuilder を使用してビルドしたアプリケーションは、新しいバージョンの PowerBuilder ランタイム DLL とともにデプロイする必要があります。

備考

https://www.appeon.com/support/documents/appeon_online_help/pb2017r2/migrating_pb_apps の「Migrating PowerBuilder Applications」ドキュメントには、アプリケーションの変更に影響を与える可能性のある PowerBuilder のバージョン 6.5 から最新バージョンまでの PowerBuilder の変更情報が記載されています。

8.1 旧バージョンの PowerBuilder から .NET ターゲットを移行する

.NET Web サービスコンポーネントを移行するときは、開発およびデプロイ用コンピューターでサポートファイルの削除またはインストールが必要になることがあります。

.NET プロジェクトを以前のバージョンの PowerBuilder からデプロイした場合は、マイグレーションした .NET プロジェクトを再デプロイする前に以下の手順を確認または完了してください：

- .NET Web サービスターゲットの場合、開発用コンピューターと運用サーバー上のアプリケーションまたはコンポーネントの ASP.NET 一時ファイルを消去します。
一時ファイルは `C:\WINDOWS\Microsoft.NET\Framework\version\Temporary ASP.NET Files\projectName` ディレクトリにあります。「version」は通常 v2.0.50727 で「projectName」はプロジェクトの Web アプリケーション名または Web サービス仮想ディレクトリ名です。
- すべての .NET ターゲットで、旧バージョンの PowerBuilder ランタイムファイル(システムアセンブリおよび Win32 DLL)をすべてのデプロイコンピューターまたはサーバーからアンインストールした後ランタイムパッケージまたは別ツールを使用して、「*Deploying Components as .NET Assemblies or Web Services*」の「Checklist for deployment」セクションの説明に従って、PowerBuilder の現行バージョンのランタイムファイルをインストールします。

8.2 プロキシの変数名としてのシステム型

PowerBuilder 10.5 以降のバージョンでは、Web サービスプロキシの変数名としてシステム型を使用することはできません。

PowerBuilder システム型が変数名として使用されると、Web サービスプロキシウィザードは

接頭辞 `ws_` を適用して変数名を変更します。Web サービスアプリケーションを PowerBuilder 10.2 以前からマイグレーションして、PowerBuilder 10.5 以降で Web サービスプロキシを再生成する場合は、変数名の変更を反映するようにコードを変更する必要があります。

PowerBuilder システム型には、PowerBuilder ブラウザの[システム]タブページに表示されているオブジェクトとコントロールだけでなく、ブラウザの[カタログデータ型]ページに表示されているカタログデータ型(`band`, `button`, `encoding`, `location`, および `weekdays`)も含まれます。

たとえば、PowerBuilder カスタムクラスユーザーオブジェクトから Web サービスを構築し、その関数の 1 つに `location` という名前の `string` 引数がある場合、Web サービス用に生成されるプロキシでは、引数が `ws_location` へ変更されます。

8.3 Microsoft SQL Server を使用した OLE DB のパフォーマンス

PowerBuilder 10.5.2 以降では、Microsoft SQL Server データベースで OLE DB データベースインターフェイスを使用して、データウィンドウにデータを取得するか、**SELECT** 文で埋め込み SQL カーソルを使用すると、複数コマンドの実行をサポートするためにサーバー側のカーソルが使用されます。

これによりパフォーマンスが悪化する場合には、Block データベースパラメータのサイズを 500 以上に増やすか、PBODB INI ファイルの[Microsoft SQL Server]セクションに次の行を追加して、サーバー側のカーソルをオフにします。

```
ServerCursor = 'NO'
```

8.4 OpenTab の動作変更

PowerBuilder 10.2.1 Build 9716, PowerBuilder 10.5.1 Build 6505, および PowerBuilder 11.0 Build 5021 で、Visible プロパティに「false」を設定しているタブに実行時に SelectedTab プロパティが適用されると異常動作することが修正されました。

この変更の結果、OpenTab および OpenTabWithParm 関数の動作が変更されました。以前のバージョンでは、タブページとしてユーザーオブジェクトを開くために OpenTab または OpenTabWithParm 関数を呼び出すと、ユーザーオブジェクトの Visible プロパティに「false」を設定していてもタブページが表示されました。現在のバージョンでは、タブページを表示するためには、ユーザーオブジェクトの Visible プロパティに「true」を設定する必要があります。

8.5 ImportFile のサイズ制限

アプリケーションで ImportFile メソッドを使用して、非常に大きなテキストファイルをデータウィンドウまたはデータストアにインポートすると、ImportFile はエラーコード-15 を返します。

バージョン 10.0 以降の PowerBuilder では Unicode 対応です。以前の ANSI バージョンの PowerBuilder では、より大きなテキストファイルをインポートすることができませんでした。

備考

以前のバージョンのリリースノートには、大容量ファイルのサイズ制限は約 839,000 行でした。

ただし、サイズ制限はファイル内のカラム数、および行数に依存します。

9 ヘルプおよびその他の情報の入手

この製品リリースの詳細については、製品ドキュメントサイトとオンラインヘルプを参照してください。

- 製品ドキュメント <https://www.appeon.com/developers/library/product-manuals-for-pb> は、ダウンロード可能な PDF 形式のドキュメントです。ウェブサイトには Whitepapers, Community Forums, Maintenance Releases および Support Content といった他のリソースへのリンクもあります。
- 製品のオンラインヘルプ

PDF ドキュメントを閲覧または印刷するためには、Adobe Acrobat Reader が必要となります。Adobe Acrobat Reader は、[Adobe](https://www.adobe.com/ja-jp/acrobat/reader.aspx) ウェブサイトから無償でダウンロードできます。

備考

製品リリース後に追加された重大な製品情報またはドキュメント情報を含む最新のリリースノートは製品ドキュメントウェブサイトから入手できます。

9.1 Technical Support

すべてのお客様は、再現可能なソフトウェアの欠陥に対して標準的な技術サポートを受けることが可能となります。Appeon サポートサイト:<https://www.appeon.com/standardsupport/> (ログインが必要)で標準のサポートチケットを使用することができます。

この製品のプレミアムサポートを購入した場合は、指定された認定サポート担当者は、Appeon サポートサイト: <https://support.appeon.com> (ログインが必要)で、技術的な問題や質問に対して支援を求めることができます。

10 重要免責事項および法的情報

Coding Samples

Any software coding and/or code lines / strings ("Code") included in this documentation are only examples and are not intended to be used in a productive system environment. The Code is only intended to better explain and visualize the syntax and phrasing rules of certain coding. Appeon does not warrant the correctness and completeness of the Code given herein, and Appeon shall not be liable for errors or damages caused by the usage of the Code, unless damages were caused by Appeon intentionally or by Appeon's gross negligence.

Accessibility

The information contained in the Appeon documentation represents Appeon's current view of accessibility criteria as of the date of publication; it is in no way intended to be a binding guideline on how to ensure accessibility of software products. Appeon in particular disclaims any liability in relation to this document. This disclaimer, however, does not apply in cases of wilful misconduct or gross negligence of Appeon. Furthermore, this document does not result in any direct or indirect contractual obligations of Appeon.

Gender-Neutral Language

As far as possible, Appeon documentation is gender neutral. Depending on the context, the reader is addressed directly with "you", or a gender-neutral noun (such as "sales person" or "working days") is used. If when referring to members of both sexes, however, the third- person singular cannot be avoided or a gender-neutral noun does not exist, Appeon reserves the right to use the masculine form of the noun and pronoun. This is to ensure that the documentation remains comprehensible.

Internet Hyperlinks

The Appeon documentation may contain hyperlinks to the Internet. These hyperlinks are intended to serve as a hint about where to find related information. Appeon does not warrant the availability and correctness of this related information or the ability of this information to serve a particular purpose. Appeon shall not be liable for any damages caused by the use of related information unless damages have been caused by Appeon's gross negligence or willful misconduct.

11 著作權 / 免責事項

© 2018 Appeon Limited. All rights reserved.

No part of this publication may be reproduced or transmitted in any form or for any purpose without the express permission of Appeon Limited.

The information contained herein may be changed without prior notice. Some software products marketed by Appeon and its distributors contain proprietary software components of other software vendors. National product specifications may vary.

These materials are provided by Appeon for informational purposes only, without representation or warranty of any kind, and Appeon Limited shall not be liable for errors or omissions with respect to the materials. The only warranties for Appeon products and services are those that are set forth in the express warranty statements accompanying such products and services, if any. Nothing herein should be construed as constituting an additional warranty.

Appeon products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of Appeon. All other product and service names mentioned are the trademarks of their respective companies.